様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２１ 日現在

機関番号：３２２０１
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１２２７５

研究課題名（和文）イブン・スィーナーの医学書に対する注釈の系譜―写本調査を中心とする研究

研究課題名（英文）A Tradition of Commentaries on Avicenna's Medical Texts: A Study Focusing on Manuscript Investigation

研究代表者
俵　章浩（TAWARA, Akihiro）

足利大学・工学部・准教授

研究者番号：００８１６７８８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、中世イスラーム世界の哲学者であるイブン・スィーナー（980-1037年）の医学書、ならびに後世の学者がそれに対して著した注釈書を調査することであった。調査対象は未だ校訂・刊行されていないアラビア語写本である。イギリス、エジプト、アイルランドの三か国の図書館に赴き、アラビア語写本の調査を行った。その調査結果を国際科学史技術史学会で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
学術的意義としては、本研究により、イブン・スィーナーの医学書やそれに対する注釈書の写本を解析し、データ化することで、その医学理論や影響についての理解を深め、中世イスラーム医学史研究の材料を提供することができた。国外の図書館での写本調査により手元の資料を充実させ、テキストデータ化により研究の効率化を図った。国際学会での発表を通じて研究成果を公表し、中世イスラーム医学史研究の進展に貢献できた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to investigate the medical works of Avicenna (980-1037), a philosopher in the medieval Islamic world, as well as commentaries written by later philosophers on these works. The focus of this investigation was unedited and unpublished Arabic manuscripts. I visited libraries in three countries, the United Kingdom, Egypt, and Ireland, to conduct research on Arabic manuscripts. I presented the findings of this research at the International Congress of History of Science and Technology. This contribution has enhanced the study of the history of medieval Islamic medicine.

研究分野：イスラーム科学史

キーワード：イブン・スィーナー　イスラーム医学　イスラーム写本　アラビア語写本　クトゥブッディーン・シーラーズィー

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

研究を開始した当初、筆者はそれまでの研究において、中世イスラーム世界におけるギリシア医学の継承について歴史的に解明しようと試みてきた。当時の医学状況について学術論文などの二次資料、そして校訂・刊行された一次資料を用いて研究を行ってきたが、立ち返るべき一次資料の少なさを実感した。そのため、まずは現地に赴いて写本の中から資料を発掘していくことが必要であると感じたことが本研究の動機である。調査の対象としたのは、イブン・スィーナーの『医学典範』やその注釈書である。その理由としてはイブン・スィーナーの医学書がその後のイスラーム医学に大きな影響を与えていたこと、また、その重要性にも関わらずその影響について十分な研究がなされていないことである。

当初、訪問する図書館として、イラン、トルコ、イギリスに所在する図書館を想定していた。これは事前の調査からこれらの図書館には目的の資料が存在する可能性が高いと判断したためである。

２．研究の目的

当初の研究目的は、最終的な目標を達成するための研究の土台を提供することであった。その最終的な目的の一つは思想史上の問題に関するものである。

当時の学知の大きな流れの一つが、古代ギリシアの学問を輸入・消化する中で形成されてきたギリシア系学問の伝統である。イブン・スィーナーの『医学典範』はこの流れに属する医学書である。具体的にはガレノス医学を継承・発展させたものである。また、医学の特徴として、人の生死という問題に関わることから、生死の観念につながる魂の概念についての理論を含む。一方、イスラームという宗教においても独自に霊魂についての教義がある。これらがイスラーム世界のギリシア系医学においてどのように調和が図られているのか、資料上の裏付けによって示すこと、それが一つの最終的な目標である。

最終的な目標のもう一つは、そうした理論や教義の提唱者に注目するもので、哲学者や医学者、神学者といった学者たちの社会における地位や相互の結びつき、対立といった問題を明確にすることである。彼らが自分たちの学問領域をどのように認識していたのか、そこからどのような批判を相手に行っていたのかを明らかにしていきたい。これらの最終目標に向けての準備調査が本研究の課題である。

３．研究の方法

本研究は、将来的な目標を見据えつつ必要な材料を集める段階にある。現状では、医学史的に総括できるほどの材料が揃っておらず、明確な目標を定めてそれを実現する準備が必要である。そのため、写本調査という地道な作業が重要である。具体的には中東地域や欧州の図書館を実際に訪れて写本調査を行う。研究開始当初においては、中東地域としてイランとトルコ、欧州ではイギリスの図書館の訪問を予定していた。資料整理が不十分な図書館においては、カタログと実際の内容が一致しない場合があり、実際に内容を確認した上で必要な資料か判断する必要がある。写本の選別や閲覧に多くの時間を費やすため、これだけでも研究期間内で実現可能な十分な成果と言える。

研究手法はオーソドックスで地道なものである。つまり、資料の発掘、批判的校訂、諸著作群の中への位置づけ、思想史的観点からの評価といった手順である。文献学や歴史学で蓄積され確立されてきた研究手法を用いて写本の調査を行った。

４．研究成果

主な成果としては、写本調査とそのデータ化、および学会発表が挙げられる。写本調査を行った図書館の所在する国の数としては三か国、都市の数としては四都市、図書館の数としては五館となった。世界的な感染症の時期と重なり、当初に訪問を予定していた館数に比べて大きく減ったが、高い優先順位をつけていた図書館で調査ができた。それらの図書館で入手した資料のアラビア語本文をデータ化して研究の効率化を図った。また、国際学会での口頭発表を行った。国際科学史技術史学会において本研究の成果を公表することができた。ただ、世界的な感染症流行の時期と重なりオンライン開催となった。国内学会に関しては、日本科学史学会での発表が決定していたが、感染症流行により中止となり、講演予稿集への概要の掲載にとどまった。また、投稿には至らなかったが、英語論文の執筆を終えて英文校正を受けて、投稿直前の段階まで進めることができた。

成果の位置づけとインパクトについては、本研究により、イブン・スィーナーの未校訂の医学書やそれに対する注釈書の写本を解析し、データ化することで、その医学理論や影響についての理解を深め、中世イスラーム医学史研究の材料を提供することができた。イギリス、エジプト、アイルランドでの写本調査により手元の資料を充実させ、テキストデータ化により研究の効率化を図った。研究成果は、学会発表を通じて国際的な認知を試み、中世イスラーム医学史研究の進展にわずかではあるが貢献できたと思う。

以下、年度ごとの成果を簡潔に記す。

2018 年度においては、イスラーム初期史研究会で研究報告を行った。クトゥブッディーン・シーラーズィーの学術活動に関する社会的状況を考察し、科学史と社会史の接点を探った。また、国外の複数の図書館の写本目録を調べ、調査すべき写本の選定を行った。

2019 年度には、2019 年 8 月から 9 月にかけてイギリスのオックスフォードに滞在し、ボドリアン図書館で写本の撮影を行った。さらに、2020 年 2 月から 3 月にはエジプトのカイロとアレクサンドリアで写本の画像データを入手した。一部を除いてほとんどがウェブ上でも公開されておらず、そうした写本のデータを入手できた意義は大きい。写本の本文内容を電子ファイルとしてテキスト入力してデータベースとして活用できるようにした。

2020 年度は感染症の世界的な流行の影響を大きく受けた。日本科学史学会第 67 回年会で「イブン・スィーナーの精気（ルーフ、プネウマ）理論の継承―クトゥブッディーン・シーラーズィーの注釈書から見えるもの―」との題目で 2020 年 5 月開催の学会で口頭発表が決定していたが、年会自体が中止となった。ただ、講演予稿集に発表内容の概要を掲載できた。前年度にイギリスとエジプトで収集した写本画像を利用して、その読解とテキスト入力を進めた。

2021 年度も感染症流行が続いた。第 26 回国際科学史技術史学会で「Avicenna's *Cardiac Drugs Transmitted: An Examination of Quṭb al-Dīn Shīrazī*'s Commentary on Avicenna's *Canon of Medicine*」という題目で 2021 年 7 月 29 日にオンライン形式で口頭発表を行った。この発表は、イブン・スィーナーの注釈書に関する研究成果を国際的に共有する機会となり、大きな意義があった。また、すでに入手していた写本画像データを読解し、データ化を進めた。

2022 年度には感染症の流行が前年度に比べて収まり、国外での資料調査を実施できた。2022 年 8 月から 9 月にかけての二週間、アイルランドのダブリンにあるチェスター・ビーティ図書館でアラビア語写本の調査を行い、イブン・スィーナーの医学書に対する注釈書を中心に写本の閲覧と撮影を行った。また、同図書館で過去に撮影・マイクロフィルム化された写本の画像ファイルも譲り受けた。さらに、これらの写本の読解とテキストデータ化を進め、解読した文章をテキスト化する作業を行った。

2023 年度は英語論文の完成を主な目的とした。論文を完成させ、業者の英文校正サービスを受け、論文全体の英文を修正した。内容の細かな点に関していくつかの確認を行えば投稿できる段階まで仕上げた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 俵章浩	４．巻 55
２．論文標題 イブン・スィーナーの宇宙論とそれに対する批判：イスマーイール派とガザーリーの場合	５．発行年 2019年
３．雑誌名 地質学史懇話会会報	６．最初と最後の頁 33-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 TAWARA, Akihiro
２．発表標題 Avicenna’s Cardiac Drugs Transmitted: An Examination of Qutb al-Din Shirazi’s Commentary on Avicenna’s Canon of Medicine
３．学会等名 26th International Congress of History of Science and Technology（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 俵章浩
２．発表標題 クトゥブッディーン・シーラーズィーと宮廷：学芸保護と学術活動
３．学会等名 イスラーム初期史研究会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関